

ついにそのときがきた。

球児が海を渡る。

かねてからメジャーへの強い思いを公言してきた藤川投手が

シカゴカブスへの移籍を表明し、

メジャーリーグへの第一歩を踏み出そうとしている。

日本で14年間プロ野球選手として活躍し

押しも押されもしない球界屈指のクローザーとなった彼が

新たな戦いの場を求め、未知の世界へ飛び込んでいく

現在の心境を、いつもの飾らない言葉で語ってくれました。

さらなる高みへ。

# 藤川球児

巻頭インタビュー  
INTERVIEW

Kyuji Fujikawa

CHICAGO CUBS



— 今の心境をお聞かせください。

## 目指していた事が、やっと始まるなど。

ただ現時点では、何も分からないから希望も不安ももちろんあるけれど、でも、それが楽しいですね。

— 夢のメジャーへ、いよいよ挑戦する。

2007年に初めてメジャーと口にした時は、ほんとうに夢のような、なにか遠い目標だったんですけど。

プレーヤーとして、今まで以上に伸びる要素を見つけたいというか、まだ見ぬトップクラスというところで勝負したいと思うようになりました。



— メジャーでのプレースタイルについては。

全ての可能性といいますか、どんなピッチングスタイルになっても、結果を出さなければいけない。

そういう意味でゼロの状態。これから1がはじまる。

色んな球種をシーズン中に投げてきたので、少しでも生きてくれば。

その核となるのは、やっぱり  
ストレートかな。

— メジャーにもザナックスのグラブを連れて行って頂ける。

日本国内から、アメリカ、しかも遠征で全土を廻る事になると  
思うので、そういった中で今迄では無かった問題点も出てくると  
思うんですね。そんな時に、アメリカでもサポートしていただける  
というのは心強いです。

— 用具を選ぶ際の基準は？

学生するときなどは、スタイリッシュなメーカーに興味がありましたが  
プロ野球選手になったときに、実質的にというか  
使いたいメーカーを使うのではなくて  
使いたい物があるところを使うという

本当に良い物を使いたい  
という気持ちの方が強くなりましたね。

— 2003年から10年間ザナックスのグラブを使っていただけ。

バックアップの体制がしっかりしているし、  
一本筋が通っていると言うか、  
選手が悪い時も、いい時も、変わらずに情熱を持って  
10年間がっちりサポートして頂けているので。

使いやすく手に馴染んでいることもありますが、用具を大事にして  
きたからこそ、安定した成績が残せてきたと思うし

**グラブを叩き付けたりということが  
一度も無かった。**

それだけこの用具に愛着があったということだと思います。





— メジャーでも厳しい場面が多々あるとおもいますが、そういう時の対処法は？

苦しい時に思う事というか、誤解を恐れずに言うと

**本当に一生懸命やってきたなら、  
ダメだったらやめればいい。**

そう思えないなら努力が足りない訳だから。

そこまでやってきているなら自信を持って立ち向かえる。

— 最後にこの特集をご覧の皆様にメッセージをお願いします。

僕はザナックスのグラブを使って10年になります。

ザナックスのグラブは、誰からも愛されるグラブであると思います。

手にすれば分かります。

このグラブと共にアメリカで大きな勝負をしてきます。

もし機会があれば手に取っていただいて

自分の目指す道へと役立ててもらえたら

僕も同じ気持ちだと思って嬉しく思います。

それではがんばってきます。

— ありがとうございました。



藤川球児（ふじかわ・きゅうじ）シカゴカブス  
1980年7月21日生 / 身長184cm / 体重86kg / 右投 左打 /  
高知商 / 1998年ドラフト1位  
数々の記録を打ち立ててきた球界屈指のクローザーは今季、  
満を持してメジャーリーグへと挑戦する。

10年間ザナックスアドバイザースタッフとして、商品開発に携わっていただいた藤川投手。丁寧には厳しく、超一流のプロとしての貴重な現場の生の声を、弊社にとどけて頂けた真摯な姿勢は、今日でも変わる事無く、メジャー挑戦を目前に控えた今も、野球選手を目指す人達がより良いパフォーマンスを発揮できる様にと、インタビューにも惜しみなく協力してくれました。メジャーリーグでの藤川投手の活躍をご期待ください。